

# ◎シリーズ 長岡京歴史散歩

(119)

長四小学校校区の遺跡  
↳ 鞆岡郷と鞆岡廃寺（ともおか へいじ）

長岡第四小学校のある友岡を中心とする地域は、古代においては「鞆岡」と呼ばれていました。

「鞆岡」というのは西山から延びてくる細長いなだらかな丘陵を馬の背になぞらえて呼んだものと考えられ、小泉川の左岸に沿って三川合流部へと延びています。ということは、大坂方面から旅する人は、京都盆地に入ってからまず最初に鞆岡の地をおおぎ見ることとなります。

鞆岡には、このような立地条件によって、早く

から人々が住むようになっていました。

文字資料によって地名を確認できるのは、古くは藤原京の時代（七世紀末）にまで遡ります。

藤原京から出土した木簡には「乙訓評鞆岡三」と書かれており、このころすでに乙訓評（郡の前身）とともに、評に次ぐ単位（郷）として鞆岡が成立していたことがわかります。

同じ頃、鞆岡には寺院も建立されました。

鞆岡廃寺と呼んでいる寺院跡で、山崎廃寺、乙訓寺などとともに、当時の最新文化が開花していたのです。これらの寺は、飛鳥に次ぐ白鳳期の寺院と呼ばれています。

鞆岡廃寺は、今の友岡4丁目付近、長岡病院から北の方にあつたことが調査などで確認されています。

古代の寺院は、古道に沿って建立されている傾向があることから、鞆岡廃寺の塔は、京都盆地に入ってから、まず目に入る、格好の目標物になったことでしょう。

この寺は、長岡京のころにもまだ建っていたようですが、廃都後しばらくして廃絶したようです。

▲ 友岡から 大阪と京都を結ぶ道は、後に「西国街道」として整備され、江戸時代には「仮名手本忠臣蔵」の舞台としても登場しています。

現在、「友岡」には鞆岡さんが、また「調子」には調子さんが今も居をかまえ、それぞれ由緒を伝えています。

